

## 第4回農産物検査規格・米穀の取引に関する検討会（意見）

夏目智子

- 1等、2等区分の等級区分と名称の見直し、目視等の人的鑑定項目の客観化と穀粒判別器等による機械的計測への早期の変更
  - ・1等、2等区分の等級区分はビジネス上のBtoB取引のためのものであり、任意であることから、機械鑑定に適した規格を定める際には、等級ではなく測定値を数値で表示するなど、より多様な取引に活用できるものにすべきと考えます。名称についても、1等・2等の名称ではなく、デジタル表示に適した名称が良いと思います。
  - ・目視等の人的鑑定は、これまでにその客観性と曖昧性が指摘されていること、AIやIT技術の進展から穀粒判別器等の機械的計測への早期変更を進め、誰もが納得する測定になることを求めます。その際、生産者へのコスト転嫁は消費者のコスト増につながることから、生産者のコストが増大しないよう、考慮が必要です。
  
- 検査方法等の徹底した合理化による負担軽減と検査コスト低減
  - ・検査コストの低減にはサンプリング方法の簡素化は不可欠です。  
第3回のヒアリングにおいて、他分野に比べて、農産物のサンプリング数は比較的多いこと、サンプル数を減らす場合、そのロットの品質の管理水準の向上を図ること、または、ばらつきによる判定基準の上昇について、生産者、使用者間で合意を得ること、いずれかの対応が必要になると指摘されています。  
従いまして、サンプリングの合理化について、その負担軽減と検査コスト低減のためにはロットの品質の管理水準の向上が重要であることを、生産者、使用者、検査実施者間で合意を得るための検討を進めるべきと考えます。
  
- 輸出や高付加価値化に向けて民間主導のJAS制定の支援
  - ・米の国内消費が2030年までに17.8%下落するとの予想、少子高齢化による需要減少と消費者ニーズの多様化という厳しい状況の中では、輸出や高付加価値化は必要です。
  - ・JASは国家規格ですが、使う人が集まって民間で作る方向を積極的に進めていただき、国はそれを支援することで良いと考えます。
  - ・食味データなどのJASを検討する場合には高付加価値化には有効ですが、JASと国際規格とはイコールではないため、JAS規格の国際的な地位の向上を図ることや、国際標準化を進めるための戦略が必要ではないでしょうか。